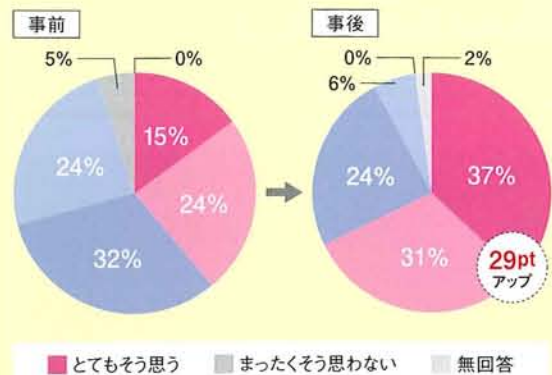




■グループでの活動について

自分の思いや考えを「まちがいをおそれずに伝える」ことができますか？



授業名	ドリカムスクール「飛ばせ みんなの夢と希望！」
企業名	株式会社西島製作所 http://www.torishima.co.jp/
コーディネート団体	NPO法人JAE(日本教育開発協会)

- 実施地域：大阪府
- 実施学年：小学校4年生
- 授業数：2時間×3日
(プラスして学校内での補講あり)
- 必要な設備：プロジェクター、スクリーン、ドライバー、ペットボトル加工用のはさみ



子どもと親しくなれるように「はかせ」などのニックネームを胸につけたり、プレゼンではカツラをかぶったり。子ども目線に立つことを大切にしたい。

今回はポンプや噴水、ロケットの仕組みも含め、実際のものづくりの専門家に教えてもらったことで、子どもたちの学びは深まったという。また彼らの姿を見て「働く」ということを身近に感じることができるようになった。

参加三日目となる最終日は、ものづくりで素晴らしい成果を出した子どもたちに、手作りの表彰状と自社で製造した「メダル」を贈呈。

「予想以上の反応が返ってきて、自信が沸いてきました。気づけば自分が子どもたちから学んでいた」というメンバーたち。

終了後の社内発表会で、植木リーダはこんな言葉を発した。

「魂を込めてものづくりの大切さ、楽しさをもう一度考えていく必要があると思っています。その先に我々の感動と、お客様の感動が待っている。決してやらされている仕事に感動はない。ドリカムスクールでの活動を通じて、子どもたちの姿を見て、改めてそう感じました」

>>> 担当コーディネーターからのひと言

池田 直子

この授業を通じて、子どもたちに、「世界で活躍するポンプを作って、みんなの笑顔のために頑張ってくれている人たちが身近にいることが伝わったと思います。」

授業をしたいならこちら
TEL06-6100-3242 ※4月末、移転予定
[JAE(NPO)法人日本教育開発協会]
HP <http://www.jae.or.jp/>
✉ info@jae.or.jp

■授業をおこなった企業の感想

- 普段は設計の仕事をしているが、今回「授業」という製品を自分たちで設計・製作・実行したことで、仕事においてもさまざまな部署を経験したいと思うようになりました。
- 一緒に苦しんで頑張って、初めてチームワークが生まれるんだと知った。
- 他人とのつきあいが苦手ですが、今回のチームで自分の主張だけでなく相手の意見を聞く大切さがわかり、メンバーとの間に深い絆ができました。

■授業をうけた子どもの声

- ものづくりは一人じゃできないということがわかった。どんな時もチームワークは大切だと思った。
- はかせやリエさん、いろいろな人がいっぱい教えてくれたの勉強になった。
- ロケット作りに成功したし、とても楽しかった。全部わすれないようにしたいです。

西島製作所は、公共用・産業用のポンプ製造・販売を行う創業九十年を超える東証一部上場企業である。同社が参加した「ドリカムスクール」は、コーディネーター団体・JAEが実施しているキャリア教育プログラムである。ドリカム、という名前の通り「夢を描いて、チャレンジする力を育むこと」を目標とする。

同社がドリカムスクールに関わるのは今年で二年目。各部署から一名ずつ選出された若手社員9名でチームを結成、自らの会社や仕事を題材に授業を行う。「どんな授業にするのか、何を伝えるのか」というテーマ設定から具体的なプログラムづくりまで、コーディネーターの支援を受けながらも、社員が半年がかりで行う。同社では、この教育活動を社会貢献としてだけでなく、社員研修の一環として位置づけているのだ。

二年連続してこうした形で行う理由は、もちろん一年目に大きな成果が出たからに他ならない。子どもたちの笑顔、アンケートでわかる変化、感動的な感想。

そして、こうした経験を経た一学生たちにも確実に成長が見えた。通常の仕事をこなしながら課外

彼らが作り上げた今回の授業のコンセプトは「楽しいものづくりを通じて、オウ(感動)を伝える」。

「水クイズ、会社紹介、ポンプクイズ、ものづくりの実演」「飛ばせみんなの夢と希望！(ものづくり)」「実技大会とポスター発表」「働く人の思いを語る」を、計三日間の出前授業で実施。ペットボトルポンプ、ヘロン噴水、ペットボトルロケットを題材にしたものづくりと、その性能やデザインを競う実技大会、ポスターによるプレゼンテーションを組み合わせた授業である。ペットボトルロケットは理科の教科書にも載っているが、教員だけで教材づくりから実験までを行うには困難が伴う。

理科の教科書のペットボトルロケットが題材

また先生方の「世界でひとつしかないもの(ポンプ)を作る場所にいるのは本当に興味深い」という言葉などから、改めて自分たちの仕事の意味を知る。自社の事業や他部署業務の理解が進み、チームでの活動を通して横のつながりができる。これらが実務にもよい影響を及ぼしているのだ。

活動としての授業準備。ほとんど話したこともない人たちとの共同作業。社内リハサルでの失敗…。もちろん日常的な仕事の中でも成長はするが、「非日常」の困難を乗り越えることで、自信をつけた社員たちは大きく成長するという。

「教えることは最大の学びである」子どもと一緒に若手人材も半年かけて学ぶ